

病害虫発生予察注意報第 2 号

佐賀県

本年はトビイロウンカの飛来量が多く、今後、早植え及び普通期水稻で発生が増加し、被害を生じる恐れがあります。ついては、以下を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。

作物名：早植え及び普通期水稻
病害虫名：トビイロウンカ



トビイロウンカ成虫

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1) 本年は、6月10～15日頃、6月25～28日頃及び7月6～11日頃を中心に、トビイロウンカが断続的に飛来した。
- (2) 県内（嬉野市）のライトトラップでの6月1日から7月25日までの総捕獲数は、10年間（2011～2020年）の中で、最も多い（表1）。

表1 県内（嬉野市）のライトトラップで6月1日～7月20日（本年は7月19日まで）に捕獲されたトビイロウンカの総数

年次	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
捕獲数(頭)	0	43	10	11	1	49	18	3	45	5800

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。
- (2) トビイロウンカの発生状況は、圃場の外からの観察では確認できない。また、田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、圃場毎に発生状況は大きく異なる。このため、発生予測図（図1）を参考にして各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する。この際、コブノメイガの発生状況も考慮し（令和2年7月22日付け病害虫発生予察注意報第3号）、効率的かつ効果的な防除対策を講じる。
- (3) 本虫は株元に生息しているので、薬剤は株元まで十分かかるよう、丁寧に散布する。
- (4) 早期水稻においても、各圃場の発生状況を調べ、防除が必要と判断された場合は、薬剤による対策を行う。
- (5) すべての作期・作型において、薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。

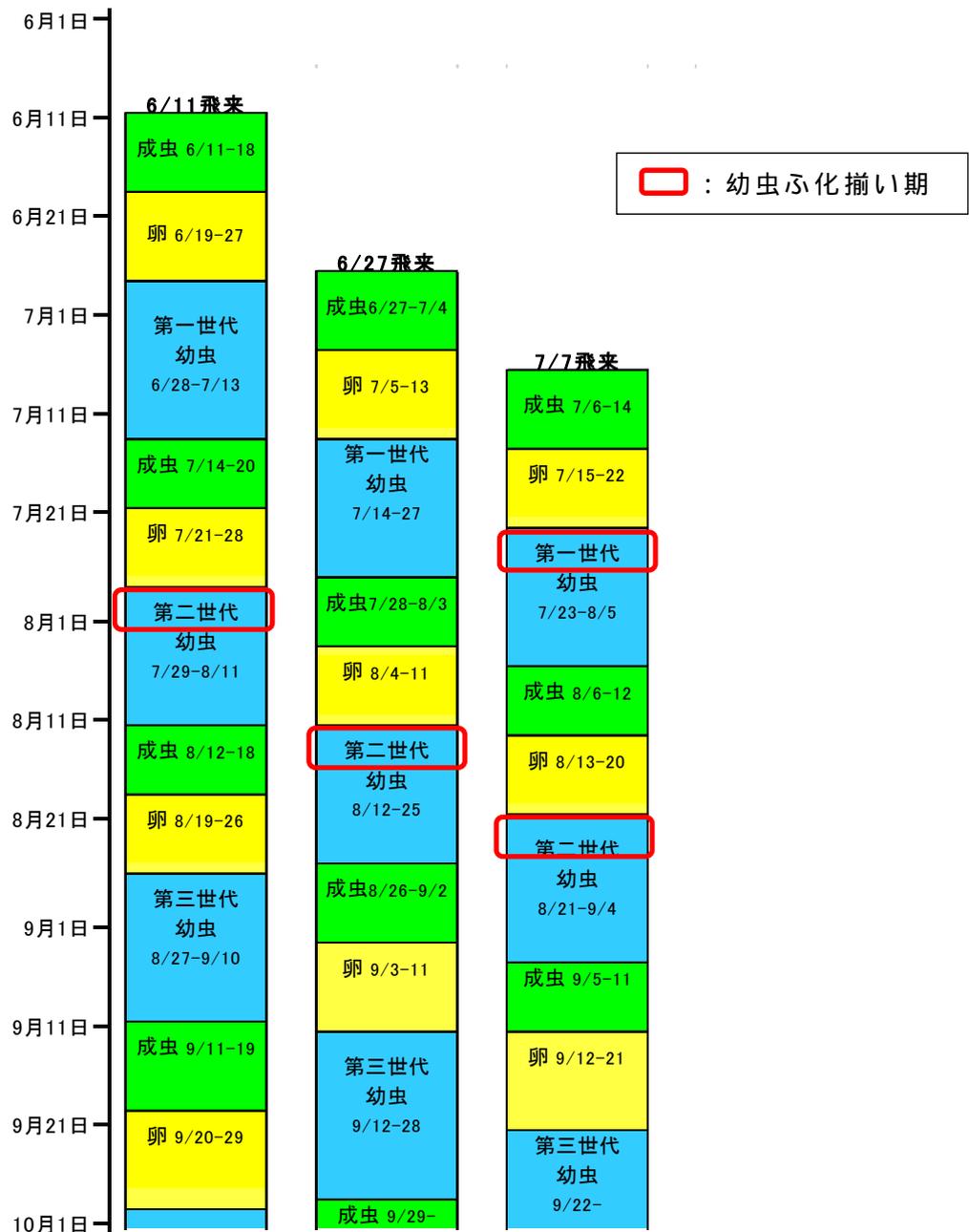


図 1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第 4 版、2020 年 7 月 21 日作成)

1. 6 月 10～15 日頃(図では 11 日)、6 月 25～28 日頃(図では 27 日)、7 月 6～11 日頃(図では 7 日)に飛来したトビイロウンカを起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7 月 21 日以降は平年値)を基に作成。
2. 本種に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。今後の各飛来波の幼虫ふ化揃い期(第一または第二世代)を、赤枠で図示した。
3. 田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、本種の発生量は異なる。また、これらの田植え時期等によって、各飛来波に対する防除の重要度も異なるので、各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する。この際、コブノメイガの発生状況も考慮し(令和 2 年 7 月 22 日付け病害虫発生予察注意報第 3 号)、効率的かつ効果的な防除対策を講じる。
4. 今後の飛来状況、気象経過に応じて、本図は更新する(農業技術防除センターのホームページを参照)。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085